

# 新年度を迎えて

会長 武井 一 義  
(株式会社 ピーエーシー 代表取締役)



2025年度のはじまりにあたり、平素より東京都設備設計事務所協会 (MET) の活動にご理解とご協力を賜っております会員の皆様に、心より御礼申し上げます。

おかげさまで当協会は、今年で発足(統合 ※)20周年という大きな節目を迎えることができました。

この記念すべき年に、私は引き続き4期目の会長をお預かりすることとなりました。

微力ながら、協会のさらなる発展、そして建築設備設計業界全体の持続的な成長に寄与できますよう、誠心誠意努めてまいります。

また、ここに改めて、発足当初に協会の礎を築いてこられた諸先輩方のご尽力と志に、心より敬意と感謝を申し上げます。

その志が継承されてきたからこそ、私たちは今この場に立ち、未来への歩みを進めることができていると思っております。

当協会が発足した平成17年(2005年)当時と比べ、私たちを取り巻く社会・経済・技術・地球の環境は目まぐるしく変化しております。

人口減少と少子高齢化、建設業界の働き方改革、気候変動への対応といった外的要因に加え、AI(人工知能)の実用化・高度化が業界構造にも大きな影響を及ぼし始めています。

その中でも現在、建築設備設計業界における最も深刻な課題のひとつが技術者の慢性的な人材不足です。

高齢化と第1次、2次産業界からの若手離れ、また、建築設備を専門とする教育機関の不足や待遇・制度面での課題も重なり、技術継承や担い手確保が困難な状況にあります。

2024年の時間外労働上限規制の完全施行に加え、今年、2025年には人口の5人に1人が後期高齢者となる「2025年問題」の年でもあります。

業界は一層の人材確保と業務の効率化を迫られています。

そんな中、近年進化を遂げる生成AI(特化型人工知能)、そして、その先にあるAGI(汎用人工知能)、ASI(超知能)は、私たちの設計実務や業務運営のあり方に根本的な変革をもたらす可能性を秘めています。

単なる自動化や効率化の道具ではなく、設計者の判断や創造性、倫理観との融合を図りながら、どう活用し共存していくかが問われています。

このような時代に求められるのは、「人間中心の設計」、「自然(地球環境)中心の設計」または、その両立、理念と倫理を再確認しつつ、技術・社会・制度の変化にしなやかに対応できる強靱な業界体制の構築ではないでしょうか。

METとしても、こうした時代の要請を的確に捉え、制度の改善提言、次世代育成、異分野との連携強化などを通じ、業界の未来を共に築いていく所存です。

去る6月10日に開催されました「第14回定時総会」において、当協会は2024年度の活動方針として、

以下の4つの重点テーマを掲げることを発表いたしました。

(1) 国土交通省 告示8号(業務報酬基準)の改正に向けての取り組み

業務報酬基準である「告示第8号」の改善および、国の改修設計業務における適正な料率設定の確立を目指し、(一社)日本設備設計事務所協会連合会と連携のうえ、国や東京都をはじめとする関係機関への働きかけを強化してまいります。

特に、建築を取り巻く多様なステークホルダーとの連携・協調は不可欠であり、(一社)東京都建築士事務所協会などの関連団体との協力体制を一層強固なものとし、制度的な改善に向けた提言活動を進めてまいります。

(2) 設備設計技術者不足の解消に取り組みます

建築設備設計分野における技術者不足は、業界全体が直面する喫緊の課題です。

高齢化による世代交代の難しさ、専門人材を育成する教育機関の不足、そして若年層の職業選択の変化など、複合的な要因によって人材供給が困難になっております。

当協会ではこれらの課題を正面から受け止め、職場環境や処遇改善、若手技術者の育成支援など、持続可能な人材確保に向けた実践的な対策を進めてまいります。

(3) 他団体との連携強化

建築設備設計業務の社会的認知度を高め、業界全体の発展を図るため、他団体との連携を積極的に進めてまいります。

特に、東京建築設計関連事務所協会協議会(通称:TARC)との定期的な情報交換を継続し、制度・技術両面での相互連携を深化させます。

さらに、公益社団法人 空気調和・衛生工学会および日本建築学会との連携の可能性についても前向きに検討を進め、学术界・実務界の橋渡しとしての役割を果たしてまいります。

(4) 一般社団法人東京都設備設計事務所協会設立20周年記念事業の実施

当協会設立20周年にあたり、記念事業を通じてこれまでの歩みを振り返るとともに、建築設備設計の社会的役割と未来への可能性を広く発信する機会としたいと考えております。

現在、記念イベントのテーマは「設備設計で実現するウェルビーイングな社会」を軸に検討を進めております。

これは、今後ますます重要となる「ウェルビーイング(幸福・健康・快適)」の視点を、設備設計がいかに実現していけるかを探る場とするものです。

開催日時は、2026年1月30日(金)、東京国際フォーラム B7・B5ホールを予定しております。

詳細については現在計画中ですが、確定次第、会員の皆様に随時お知らせいたします。

ぜひ、多くの皆様にご参加いただき、ともに節目の年を祝し、未来に向けた一歩を踏み出す機会とできれば幸いです。

最後になりますが、20周年という節目を迎えられたのは、ひとえに会員の皆様のご支援とご尽力の賜物です。この場をお借りして、改めて深く感謝申し上げますとともに、今後も当協会活動への積極的なご参画をお願い申し上げます。

本誌が、会員の皆様にとって有益な情報交換と気づきの場となることを願って、巻頭のご挨拶とさせていただきます。

※平成17年(2005年)、東京都で活動してきた二つの協会(社)東京都建築設備設計協会と新東京設備設計事務所協会が統合して発足しました。